



初公開時のアンケートより

けど来て本当によかった。

もし、つまんなかったら、
思いっきりアンケートに
文句を書いて、金返せと
書いて帰ろうと思った。

再上映不可能といわれたインディーズ映画の傑作が30年の時を経て4Kリマスターで蘇る

ワンカラット

みかわこうじ監督作品

出演 橋本太志 加戸谷隆斗



監督・音楽・編集／みかわこうじ 脚本／加戸谷隆斗 製作／愛川真由 撮影・助監督／宮崎貴正 録音／大川雅之

ワンカラット

よかった…
…言葉になりません。

とてもない傑作だと思つ。
年間百本くらいの映画を観ているが、
最上級にランクされるべき作品です。

ラストシーンは思わず涙がでました。
映像の色、音楽。とてもよかったです。

派手さがあるわけではないけれど、
心に訴えるものがあると思います。
人間の弱さや強さを改めて
感じさせていただきました。

忘れていた気持ちを
思いおこさせてくれました。

懐かしい気持ちになり
元気になりました。ありがとうございます。

生きる意味、死ぬ意味、
なぜ生きる、なぜ死ぬ、考えさせる作品。

もし、つまんなかったら、
思いつきアンケートに文句を書いて、
金返せと書いて帰ろうと思った。
けど来て本当に良かった。

最後のシーンは素晴らしかった。
心に焼き付いている。

これは凄い映画だよ！

映画「ワンカラット」製作30周年記念上映会にあたって

映画「ワンカラット」は、映画制作グループ「伽羅」が、1995年に撮影を始めて、1997年に完成した作品です。自主制作の低予算映画でしたが、「命」という普遍的なテーマを扱っている現代にも通じる内容の物語です。

東京と横浜での単独上映、福井インディーズ映画祭での観客賞受賞やロンドン映画祭への出品など、自主制作映画としては注目を集めることのできた作品となりました。

撮影に使用した機材は、その当時の最高画質だったソニーのED-Betaビデオを使用しました。しかし、ハイビジョン画質が当たり前の現在では、鑑賞するには見苦しく通用しないものとなり、2007年の小規模上映を最後に封印されていました。

わたしが映画製作をするうえで、いつも考えていたことがあります。それは100年後も色褪せない作品を創り上たいということでした。時代に乗ることも大切ですが、鑑賞した時のその場限りでは無く「家に持って帰れる」作品を残したかったのです。しかし、そんな想いで製作した「ワンカラット」は、今となってはフォーマットが適合しなくなり、画質も通用しなくなるという、作品の中身とは別の要因で消えかかっていたのです。

そんな過去の遺物となっていた作品に新たなチャンスが訪れたのは、生成AI元年と呼ばれた2023年のことです。低解像度の動画を4Kに変換するという魔法のような技術が生まれたのです。この技術を活かして「ワンカラット」を4K化することができないかと模索を始め、かつての完成作品を4K化するのではなく、元々の撮影素材を完成作品と同様に編集し直すことにしました。

そして、編集を通じて何度も作品を見直す中で「ワンカラット」が100年後も生き残ることのできる作品だと確信を深めました。

現代の技術で蘇った30年前の映画「ワンカラット」を大きなスクリーンで堪能していただく機会を作り、この映画に出会えるチャンスをもう一度つくること。それは意義あることだと感じました。

精魂込めて作り上げた映画「ワンカラット」を多くの人々に観ていただき、作品に込めた想いをお一人お一人に持ち帰ってもらうこと、それを心から願っています。

監督みかわこうじ

大和市文化創造拠点シリウス やまと芸術文化ホール サブホール

8月30日(土) ①14:30 ②16:30 ③18:30

電子チケット販売サイト



www.onect.com

同時上映
月のかたち